

PMR資格試験への挑戦 5

労働組合活動への適用

山田 義郎

■ 受験動機

現在、私はIT会社でプロジェクトの品質保証業務に携わっております。

PMR試験受験の切掛けは業務スキル向上のためにPMS試験を受験したことでした。

受験勉強の中でP2Mの考え方を知り、興味を持ちました。

私は業務の傍ら、会社の労働組合の執行委員長を務めており、「長時間労働への対応」や「会社との賃金交渉」などさまざまな問題を抱えております。

このような問題に対してP2Mの考え方をを用いることで解決が可能ではないかと考え、より知識を高めるために受験しました。

■ 受験の感想

受験を通して自らが成長していくことを実感できました。

PMR試験を乗り切るにはとにかく考えることが必要です。

お恥ずかしながら、試験でなければ普段はなかなかここまで考えることを行っておりません。自分の中の知識を全てひねり出す思いで回答しました。

しかしながら試験を重ねるに従って、今までは熟考しなければ出なかった考えが自然と出てくるようになりました。

試験が終わった今ではP2Mの考えが常に頭の中にあるような感じです。

試験の中で特に印象に残っているのはモジュール試験です。

モジュール試験では情報収集・分析、意見調整、プレゼンテーションなどさまざまなスキルが求められるため、自らの持つスキルを結集して取り組む必要がありました。

また、いろいろな業種の方と全力で意見を交わすことで自らのPM力を知るとともに異業種のPMの方の考え方は非常に勉強になりました。

また、モジュール試験は一時の油断も許されません。気を抜いたり、考えを休めたところはしっかりと試験官の方に見破られておりました。

■ PMRとしての展望

P2Mの適用範囲は幅広いと考えます。

品質保証業務はもちろん労働組合の活動にP2Mを適用して実績を重ね、他の労働組合にも紹介することでP2Mを普及していきたいと考えております。



【プロフィール】 山田 義郎 (やまだ よしろう)

IT会社勤務、多くの開発プロジェクトを経験し、現在は品質保証部署にてプロジェクトのアセスメントに従事、労働組合の執行委員長としても活動中。